

第6回 地域産業振興戦略会議(H24.12.21)での主な意見

- ・県東京事務所との連携で関東からの企業誘致の促進を
- ・起業家に対する支援(赤瓦周辺のショップ)の充実が必要
- ・企業誘致を進めるには人材(育成・確保)が必要
- ・観光面、白壁土蔵周辺だけの取組でなく、他県の地域との連携を
※小京都(津和野・松江)、伝建群などのつながり
- ・農産物加工品の開発、加工施設が倉吉・中部にない。地元の農産物とマッチングできるような施設が必要。
- ・企業の誘致と同じく、地元企業への支援を強化して欲しい。また、農家に対する加工設備整備の支援もお願いしたい。
- ・鳥姫線開通で関西圏からの移動・物流コストが下がるので、これを利用して地域の活性化を
- ・浜村から鳥取までの道路整備の応援を(鳥姫線とつながれば関西へのアクセスが改善)
- ・企業誘致が進んでいることはいいことだが、企業立地が目的ではない。
⇒ビジョン目標「ものづくり産業の振興」という観点からの評価も必要
- ・成果の報告のみならず、うまくいってない部分(課題・問題点)の情報整理が必要

倉吉市地域産業振興ビジョンの今後の取り組みについて

(地域産業振興戦略の推進に向けた今後の方向性)

地域産業の振興の方向性 1 : 「ものづくり産業の振興」

【地域産業振興戦略 1 : 既存企業の経営基盤強化】

- ①企業ニーズの把握に努めながら、企業立地促進補助金制度、制度融資など各種支援策の情報提供により、既存企業の経営基盤の強化・安定化に向けた支援を進める。

【地域産業振興戦略 2 : 企業誘致】

- ①倉吉市関西事務所を中心とした企業誘致活動を推進する。
- ②「倉吉市企業立地促進補助金制度」の充実や西倉吉工業団地の再整備、灘手工業用地を始め、新たな工場用地の確保により、その受け皿の整備を図る。

【地域産業振興戦略 3 : 環境・エネルギー産業の育成】

- ①今後の成長分野である太陽光発電及びEVカー関連産業の誘致活動を行う。
- ②住宅用太陽光発電等補助金について、新たに家庭用燃料電池を設置する個人に対し補助金を交付することを加え、家庭用燃料電池関連産業等の振興を図る。
- ③倉吉市公共施設を活用した太陽光発電屋根貸し事業を推進するため、対象施設の調査を実施する。
- ④EVカーの普及の推進をするため、倉吉市公用車のEVカー導入を推進する。
- ⑤倉吉市における小水力発電は、関金地区に天神野土地改良区と山守電気共同利用農協が設置している小水力発電所が2箇所あり、平成24年度から26年度の3カ年で農業農村小水力発電施設導入事業を活用し、施設改修を実施する。

地域産業の振興の方向性 2 : 「農商工連携による新産業の創出」

【地域産業振興戦略 1 : 地域ブランド商品の開発】

- ①農商工連携組織（新産業共通基盤等）と連携し、農産物等の地域資源を活用した商品の開発に向けた取組みを支援し、地域ブランド商品の開発を促進する。
- ②地域商品の魅力向上のため、商品のブラッシュアップを図る取組みを継続する。
- ③農林業者自らが加工・製造・流通・販売までを主体的に取り組み6次産業化を推進するため、施設整備等を支援し、6次産業化による農林業者の所得向上を図る。

【地域産業振興戦略2：販路開拓】

- ①「倉吉市商品等販路開拓支援補助金」制度の継続実施により、市内中小企業者の商談会等への出展を促進し、新たな販売ルートの確保・創出を図る。
- ②地域商品の認知度の向上及び販売促進を図るため、個々の事業者の商品の販路開拓の方向性を把握し、各種商談会及び物産展の情報提供を行い、打って出る事業者を支援する。
- ③市内中小企業者に対し、首都圏、関西圏における商談会や物産展等の出展機会を提供し、打って出る事業者の掘り起こしを進める。
- ④都市部の消費者に対して発信力のある本市の農産物と併せて加工品をPRすることで商品の魅力を高め、一層の販路拡大を図る。

地域産業の振興の方向性3：「魅力あるまちづくりと観光業の振興」

【地域産業振興戦略1：にぎわいのあるまちづくり】

- ①起業の支援及び中心市街地等の空店舗の有効活用を図るため、空店舗の情報発信と利用希望者とのマッチングを図る。
- ②起業の支援及び中心市街地等の空店舗の有効活用を図るため、「空店舗活用・家賃補助」、「空店舗活用・店舗改装補助」制度の活用促進により、魅力ある商店街づくりを目指す。

【地域産業振興戦略2：地域観光魅力の創出】

- ①平成24年度より民間主導での運営を開始した「くらし観光・MICE協会」との連携強化を図る。
- ②活用可能な地域資源を掘り起こし、観光素材、観光商品化に向け磨き上げるための検討、支援を行う。
- ③ターゲットを絞った観光モデルコースの設定に向け、各観光スポットを単に結ぶモデルではなく、倉吉“ならでは”の体験メニューを盛り込み、倉吉“らしさ”を味わえる店舗などに宿泊を加えたコースを作成。
- ④伝統産業や農業資源を活用した、短時間でできる手軽な体験から、職人の指導を受けながら本格的なモノづくりに挑戦する体験まで、様々なニーズに応えられる体験メニューの設定を事業者と連携し推進する。
- ⑤関金温泉の活性化に向け「観光分野」「健康分野」「介護分野」を連携させ、保養温泉地として長期滞在者の増加をはかる新たなメニューづくりをおこなうとともに、地域住民に多く利用され親しまれる温泉地を目指す「関金温泉プラチナ（白金）プロジェクト」を推進する。

- ⑥民泊を利用した農業体験ツアーを商品化し都市部からの誘客を行うとともに、都市部住民や小学生との交流を促進するため地域資源を活用した体験型教育旅行の誘致にむけた取り組みを進める。

【地域産業振興戦略3：観光資源の整備】

- ①観光ガイドの継続したスキルアップ研修と、ガイド以外の事業者・地域住民等も対象とした、この町の魅力を伝える人材の養成を行う講座を開催する。
- ②エキパル倉吉や白壁土蔵群の観光案内所において、来訪者に観光情報が的確にわかるよう情報の集約・共有の徹底を図る。
- ③マーケティングを明確にするため、倉吉の観光客の入込や経済効果について検証を行う。
- ④圏外から車で訪れる観光客に対し、適切で見やすい案内板を調査し計画的な観光案内板等の整備を行う。

【地域産業振興戦略4：観光客の誘致】

- ①鳥取県の観光プロモーターと連携し、首都圏、関西圏、中京圏等の旅行代理店に対し積極的な訪問セールスを実施する。
- ②倉吉観光DVDを多方面で活用することで、倉吉の認知度を高める。
- ③倉吉市関西事務所と連携したセールスプロモーションを実施する。
- ④観光大使に委嘱した著名人の知名度や人脈を活用して、本市の観光PRを図るとともに、本市に親しみと強い思い入れのある方を「くらよし応援隊」として認定し、周囲の人々に対して積極的に本市のPRを行ってもらおう。
- ⑤経済効果の高いコンベンションの誘致に向け、本市独自の支援制度をPRしていくとともに、(財)とっとりコンベンションビューローなどと連携した誘致活動を行う。